

平成22年度 学内研究助成金 研究報告書

研究種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input checked="" type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input type="checkbox"/> 21世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input type="checkbox"/> 21世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	医薬品の普及過程	
研究者所属・氏名	研究代表者：経営学部 経営学科 准教授 筒井 万理子 共同研究者：	

1. 研究目的・内容

本研究の目的は、医薬品の普及過程のメカニズムを解明し、その研究成果を書籍として出版することにある

2. 研究経過及び成果

本研究では、医薬品の普及過程のメカニズムを解明し、その研究成果を書籍として出版した。

近年の医薬品のイノベーションに関する研究は、特に新薬の開発プロセスに注目するものが多い。これは新薬の開発がセンシツ（千に三つ）と言われるように製品化までの成功確率が他の業界と比較して極めて低いという業界特性によるためであろう。しかし医薬品経営の難しさは開発段階だけではない。新薬が開発された後に、実際に医療現場に広く普及させるプロセスにも特有の問題が存在する。そこで本研究では医薬品の普及過程の解明を目的とした。

製薬会社および医師を対象とした実証研究を行った結果、医薬品の普及過程は医薬品の採用者である医師が他の医師と医薬品の臨床情報を共有するプロセスであることが明らかになった。新しい医薬品は臨床情報の蓄積が少ないため、副作用や効果的な使用方法について不確実性が高い。そこで医師たちは互いに情報共有することによって、新しい医薬品の不確実性を削減し、採用を決定するのに足りる判断材料を獲得しようとしていたのである。

医薬品の臨床情報を共有する医師たちのネットワークについては次の発見があった。医薬品の採用傾向を出身医局別に集計したところ、同一医局出身の医師たちによる同調行動が見られた。また医師に対するインタビューの結果からも、同じ医局で学んだ医師たちとの情報共有が多いことが分かった。このような結果から、医薬品の臨床情報は同窓医師コミュニティの間で共有されていることが明らかになった。その理由は、医師の治療にまつわる知識の多くが医局時代に培われているためであった。

医師たちの情報共有のあり方については次の発見があった。多忙な医師たちが情報共有を行う媒介として製薬会社のMR（Medical Representative、医薬情報担当者）が重要な役割を果たしていたのである。MRへのアンケート調査を集計したところ、MRたちは情報提供をする相手である医師から、逆に情報を得ていることが明らかになった。同行調査では、医師の持つ医薬品の臨床情報を得て、（もちろんその医師の了解を取った上で）それを他の医師に提供していたのである。

上記の実証研究の成果をまとめると次の通りである。新しい医薬品は使用結果について不確実性が高いため、採用者である医師たちは採用決定の判断材料として臨床情報を収集するが、同窓医師たちと情報共有することでより効果的に情報収集を行っている。そして医師たちの情報共有の媒介的役割を医薬品会社のMRが担うことで、製薬会社も自社の医薬品の普及促進に関与することができるのである。

本研究を書籍として出版するにあたり、第1部に先行研究のレビューと第2部に事例研究の2部構成とした。第1部ではイノベーション普及に関する研究、製品価値を実現する情報や知識に

関する研究、知識を中核概念とした経営学の諸理論について体系的にサーベイを行った。第2部では医薬品の普及過程における医師コミュニティおよび製薬会社のMRの活動について、定量的調査および定性的調査の結果をまとめている。

理論的インプリケーションとしては、普及学とナレッジ・マネジメント研究の融合、医薬品普及時の製薬会社の競争優位性の解明を挙げる事ができる。そして実践的インプリケーションとしては、新しい医薬品が迅速に市場に普及するための製薬会社の戦略的行動の在り方、具体的にはMRマネジメントの施策の提案が可能となるであろう。

3. 本研究と関連した今後の研究計画

2011年度学内研究助成金（奨励研究）の交付を受け、「医薬品の製品価値形成をめぐる医師間のコミュニケーション構造とその社会的構成過程」というテーマのもとで研究を進めている。本研究（2010年度学内助成金）では医薬品普及のメカニズムを解明したが、今後の研究（2011年度学内助成の対象となった研究を含む）では、医薬品普及の鍵である医師間コミュニケーションについて、社会的構成主義やネットワーク論の観点から詳細な研究を行う予定である。

4. 成果の発表等

発表機関名	種類（著書・雑誌・口頭）	発表年月日（予定を含む）
白桃書房より出版	著書	2011年3月26日